



只今開催中！

愛知県政記者クラブ  
名古屋市政記者クラブ  
岡崎市政記者会 岡崎新聞記者会  
中部芸術文化記者クラブ

平成 25 年 9 月 4 日 (水)  
愛知県県民生活部文化芸術課  
国際芸術祭推進室調整グループ  
担当：菊池、川北、太田、犬飼  
電話：052-971-6111 (内線 724-705/724-707)

## オアシス 2 1 で即興ライブ&盆踊り プロジェクト FUKUSHIMA! (総合ディレクション：大友良英) による 「フェスティバル FUKUSHIMA in AICHI!」9 月 7 日・8 日開催

あいちトリエンナーレ 2013 では、「いまの福島」と「未来の福島」の姿を全世界に向けて発信する「プロジェクト FUKUSHIMA!」を招聘し、9 月 7 日 (土)・8 日 (日) にオアシス 2 1 で「フェスティバル FUKUSHIMA in Aichi!」を開催します。

少年期を福島で過ごした大友良英が総合ディレクションを行い、多くの想いや願いを繋ぎ合わせた「大風呂敷」を敷き詰めた会場で、今年のフェスティバル FUKUSHIMA! のメイン催事だった「盆踊り」や、一般公募メンバーによる即興ライブ「オーケストラ AICHI!」を通して、人々が交流し、楽しみ、未来について考える“祭り”を創造します。



photo: 菊池良助



photo: 地引雄一

### 1. 「フェスティバル FUKUSHIMA in AICHI!」開催概要

日時：平成 25 年 9 月 7 日 (土) 15:00-20:00 / 9 月 8 日 (日) 11:00-17:00

会場：オアシス 2 1 銀河の広場 (名古屋市東区東桜 1-11-1)

料金：無料

### 2. 参加アーティスト

総合ディレクション：大友良英

美術、大風呂敷、ヤグラ等舞台製作：アサノコウタ、中崎透、

愛知や福島の大風呂敷チームのみなさん

出演：オーケストラ AICHI!、大友良英&あまちゃんスペシャルビッグバンド、  
遠藤ミチロウ、マダムギター長見順、岡地曙裕、勝井祐二、中村達也、ピカ☆、  
珍しいキノコ舞踊団、スモッグストーンパーズ今池連合、橋本知久、沼田眞由み  
『長者町音頭』&『みなとヤレコノ』踊り子の皆様、ほか

### 3. タイムスケジュール（予定）

<9月7日（土）15:00～20:00>

（07:30 風呂敷を敷く）

（08:00 準備・設営）

（14:00 公開リハーサル）

15:00 開演宣言～大友良英&あまちゃんスペシャルビッグバンド（40分）

15:50 『イシノオト』（橋本和久・沼田眞由み）：参加型パフォーマンス（40分）

16:55 大村知事（あいちトリエンナーレ実行委員会会長）挨拶

17:00 オーケストラ AICHI！（20分）

18:00 盆踊り（LIVE 演奏ほか）

『ええじゃないか音頭』『あまちゃん音頭』『相馬盆踊り』（プロジェクト FUKUSHIMA!）／『長者町音頭』『みなとヤレコノ』（名古屋より）／ほかやぐらライブ等

20:00 終了（予定）

<9月8日（日）11:00～17:00>

（9:00 準備・公開リハーサル）

11:00 オーケストラ AICHI！（40分）

12:00 LIVE

ピカ☆／珍しいキノコ舞踊団／スモッグストーンパーズ今池連合／  
勝井祐二（vln）＋中村達也（ds）＋大友良英（g）／遠藤ミチロウ  
／マダムギター長見順（g, vo）＋岡地曙裕（ds）

16:00 盆踊り（LIVE 演奏ほか）

17:00 終演宣言（予定）

### 4. アーティストについて

#### プロジェクト FUKUSHIMA!（総合ディレクション：大友良英）

東日本大震災と、震災によって引き起こされた東京電力福島第一原子力発電所の事故は、地震と津波の被害に加え、放射能汚染という未曾有の事態を福島にもたらした。その福島から、「いまの福島」と「未来の福島」の姿を全世界に向けて発信していこうとするプロジェクト。福島出身／在住の大友良英（音楽家）、遠藤ミチロウ（音楽家）、和合亮一（詩人）の3名を代表とし、県内外から集まった有志によって2011年5月に立ち上げられた。同年8月15日に福島市内で開催した『フェスティバル FUKUSHIMA!』には約1万人が来場し、翌年は「世界同時多発フェスティバル」に拡大。その他、インターネット放送局「DOMMUNE FUKUSHIMA!」の運営、学びの場となる「スクール FUKUSHIMA!」の実施、共鳴するアーティストによる作品発表の場と支援金募集の仕組みを兼ねた「DIY FUKUSHIMA!」など、複数の活動を継続的に行っている。

### 5. 取材申込みについて

取材をご希望の方は、原則9月6日（金）13時まで、下記までご連絡ください。

052-971-6111（あいちトリエンナーレ実行委員会事務局 担当：菊池、川北、太田、犬飼）  
当日は、会場内本部テントにて受付いたします。

## 参考資料①

### 大友良英からのメッセージ

(フェスティバル FUKUSHIMA in AICHI!公式ホームページより)

今年はいちトリエンナーレの会場に大風呂敷を敷いて、その上で納涼盆踊り大会をやりま  
す。もちろん僕らがやることです、ただの盆踊りじゃないことは見てのお楽しみです。

震災、そして福島第一原発の事故から数ヶ月後の8月15日、わたしたちは福島市の「四季  
の里」で巨大な野外フェスを開催しました。このとき会場に敷いたのが大風呂敷です。当時、  
飛散した放射性物質の大部分は空気中ではなく地面にありました。もちろん風呂敷に放射線を  
防ぐ能力はありません。ただ会場に風呂敷をしきつめることで、放射性物質が体についたり口  
に入ったりすることはある程度防げますし、なにより「これ以上放射性物質を飛散させないぞ」  
という意思表示になると思ったのです。風呂敷は全国から集まってきました。これを数週間か  
けて、地元の人たちや、全国から集まってくれた沢山の人たちとともに縫い合わせました。そ  
の面積、実に6000平方メートル。もちろんこんなことで、なにも解決しないことはわかってま  
す。でも、とてつもない労働の末、みなが踊り演奏し歌うフェスを開催するなかで、これこそ  
が生きぬいていくモチベーションになっていくんだ・・・ということ、私たちは身をもって  
実感しました。太古の人たちがなんで「祭り」をやったのか、わかったような気がしました。

この会場に来ていたいちトリエンナーレの人たちから翌年声がかかりました。愛知で大風  
呂敷を敷いてほしいと。これは本当に嬉しいオファーでした。僕らはアートをやろうとして大  
風呂敷を敷いたわけではありません。でも、それがこういう形で、アートの舞台でも認識され  
ていくんだなあと。それって、僕らが必要にせまられて自分たちの「祭り」をやったのと同じ  
ように、必要の中からやがてアートが誕生する姿そのままなんじゃないかと思いました。だと  
したら、福島で敷いたものを持ってくる＝形だけを持ってくるのではなく、プロセスそのもの  
を持って来て、愛知の人たちと一緒に一から風呂敷を縫い合わせて、会場に敷き詰め、そこを  
舞台に「祭り」をやろう、そう思うようになりました。そこには、もはや放射性物質の飛散を  
防ぐという実用的な意味はありません。ただ、なぜこうしたことが生まれたかを参加する人た  
ち皆が共有し、「祭り」を作る過程をみなでシェアしていくことで、アートの中でしか生まれ  
得ない実用以上の何かが見えてくるんじゃないかと思うようになりました。

大風呂敷にはもうひとつの効果があります。それを敷いた場所は、いつもとは違うハレの空  
間「祭り」の舞台になるんだということです。え？そんな簡単に、空間が変わるのかって？そ  
う思うのももったいもです。でもあの巨大な大風呂敷を敷いたことのある人間ならわかるはずで  
す。はっきりと空間が変わってしまうことを。そして、今年はその空間にさらに「やぐら」を  
建てます。盆踊りのときに中心にあるあの「やぐら」です。でも今までとちょっと違うのは「や  
ぐら」が複数あることです。大風呂敷の上に複数の「やぐら」。

こうしてつくられる舞台を使って、様々なコンサートやイベントが開催されます。最後はも  
ちろん盆踊り。いろいろあっても、仲が良くても悪くても、右も左も、上も下も、男も女も、  
大人も子どもも、人も猫も犬も、最後は一緒に踊って「ええじゃないか」。中心がいくつもある  
盆踊りです。震災や原発事故と、その後の混乱を通過しなければ決して出てこなかった福島  
からの発想、どうかお楽しみください。

大友良英 (総合ディレクション)

## 参考資料②

フェスティバル FUKUSHIMA in Aichi!とは  
(フェスティバル FUKUSHIMA in AICHI!公式ホームページより)

「未来は私たちの手で」  
AICHI×FUKUSHIMA それぞれの想いを寄せて、祭りを創る。

2011年東日本大震災後、福島出身／在住の音楽家・遠藤ミチロウ、大友良英と詩人・和合亮一を代表として、集まった福島県内外の有志によって立ち上げられた『プロジェクト FUKUSHIMA!』。

「故郷を失ってしまうかもしれない危機の中でも、福島が外とつながりを持ち、福島で生きていく希望を持って、福島の未来の姿を考えてみたい。そのためにも、祭りが重要です。人々が集い、語らう場が必要です。フェスティバルを通して、いまの福島を、そしてこれからの福島の姿を、全世界に向けて発信していきます。FUKUSHIMA!をポジティブな言葉に変えていく決意を持って」

世界に向けて“ポジティブ宣言”を発信することそのものを「大風呂敷」としてひろげ、その象徴として2011年8月15日に開催された【フェスティバル FUKUSHIMA!】メイン会場の芝生6000平方メートルが、全国から集まったカラフルな布で鮮やかに敷き詰められた。

翌2012年の【フェスティバル FUKUSHIMA!】～福島旗プロジェクト「はたと想う。」では、その大風呂敷が一枚一枚、大きさや色の違う無数の旗となり、オープニングイベント「Flags Across Borders」でひとりひとりの手によって掲げられる。

「FUKUSHIMA!」へのそれぞれの想いを象徴、発信してきた、大風呂敷と旗。  
プロ／アマ、大人／子どもの境界なく参加・共鳴しあう巨大オーケストラ。  
そして今年、【フェスティバル FUKUSHIMA!】のテーマは「納涼！盆踊り」。  
福島での祭りの熱気ごと、あいちトリエンナーレ2013にやってくる！

A RELATIONSHIP FOR HAPPINESS, LOVE & HOPE

愛知もまた福島とつながりを持ち、ともに生きていく希望を持って、未来の姿を考えてみたい。

思い思いの表現やスタンスで、「愛知×福島のみんなで創る祭り」を彩ろう。

あいちトリエンナーレ2013 フェスティバル FUKUSHIMA in AICHI!